

研究課題名 養護教諭が行う緊急度評価能力の検証と教育システムの開発

研究代表者 鈴木 健介

養護教諭は、学校管理下で発生した事故や災害時に緊急度を評価し救急処置の判断が求められる。しかし、養護教諭の養成教育や初任者・現職者研修において、緊急度評価方法を学ぶ機会は殆ど与えられていない。そこで、本研究では学校管理下で発生した事故や災害時に、児童生徒の疾病や外傷に対する緊急度評価指標を調査し、呼吸の有無や脈拍触知の正確性について検証することを目的とした。また、その正確性を向上させるためのトレーニングプログラムの開発と普及させるための教育システムの構築を目的とした。

緊急度評価表指標である脈拍測定の実験データ収集ツールを作成し、救急専門医と養護教諭にアンケートを行い「脈拍触知の正確性について測定できるか？」・「トレーニング教材として利用できるか？」を調査した。

脈拍測定ツールが 10 台完成し、脈拍の回数、強さ、リズムの設定ができた。

救急専門医 5 名にアンケートを行い、「脈拍触知の正確性について測定できるか？」の問いに、5 名とも「測定できる」との回答を得た。また、「トレーニング教材として利用できるか？」の問いに、5 名とも「利用できる」との回答を得た。

養護教諭 40 名にアンケートを行ったところ、40 名が「測定できる」との回答を得た。また、「トレーニング教材として利用できるか？」の問いに、40 名が「利用できる」との回答を得た。

本研究で開発した脈拍測定ツールを使用することにより、高機能シミュレーターではなく、模擬患者で脈拍測定の正確性が評価できる可能性が示唆された。また、正確性を向上させるためのトレーニング教材として活用できる可能性が示唆された。今度、脈拍測定ツールと高機能シミュレーターの違いを客観的データに基づき検証する必要がある。また、教育効果について検討する必要がある。